

種名 オギ
万葉時代の呼名 おぎ・萩



詠人 東歌

万葉集卷十四 三四四六

妹なろが使う川津のささら萩
あしと人言語りよらしも

【現代訳】

妹が使う川べりのささら萩。萩は葦によく似ているけど、その悪しと言うことを私の噂として、集まってはみんなで言い合っているらしいよ。

【オギの解説】 イネ科ススキ属の多年草

ススキによく似ているが、草丈は2mを越える。洪水などの増水には耐えることができるが、地下部が長期にわたって水没するような場所には生育できないため、ヨシ群落よりも地下水位の高い場所に生育する。オギは地中に横走する地下茎から地上茎を立ち上げるので、群落を形成していても株立ちすることはない。オギは刈り取りには弱く、地上部を年1回刈り取られると、数年で急激に勢力が弱くなってしまふ。したがって、刈り取りが行われるとススキが優勢となり、放置されるとオギが優勢となる。オギは漢字で書くと「萩」であり、萩野・萩原などの地名や名字でお馴染みである。昔は洪積平野などに広く生育していたのであろうが、水田や畑地として開墾されてしまったものと思われる。しかし、最近では放棄水田などに群生しているのを見かけることも多くなった。